



新春を迎えて

東京無線支部長 野中和徳

明けましておめでとうございます。

今年こそは新春の集いをリアルに開催したいと役員含めて期待したところですが、ご承知おきのとおりコロナ感染の拡大により、本当に残念ながら開催を見送らせていただきました。

本当に残念です。新年早々、まずは会員の皆様にお詫びいたします。



2020年の春に始まった新型コロナウイルスとの闘いも、すでに3年になるとうとしています。オミクロン株による感染拡大など、感染者数の拡大や後遺症問題等、まだまだ不安要素を抱えながら、年末のサッカー・ワールドカップや海外からの観光客の日本への回帰などを見つめると、欧米の先進諸国はコロナの被害との折り合いをつけつつ、正常な生活に戻ろうとする大きな流れの中にあると感じます。ワクチンの効果、治療薬の登場、死亡率の低下などの状況を冷静に判断しつつ、本来望んでいた生活、活動等をいかに取り戻していくかが、今年の大きなテーマではないかと考えています。

東京無線支部としての昨年一年間の活動を振り返ってみますと、コロナ感染リスクの低い屋外活動が中心ではありますが、ハイキング、釣り、ゴルフなどは感染予防に配慮しつつ開催されるようになりましたし、感染状況を配慮しつつではありますが、囲碁会なども開催されました。パソコンクラブのようにリモート開催で毎月活動を継続している例もあります。また、電友会の他の会ではありますが、絵画サークルの展示会開催、写真クラブ活動のリモート実施、寄席の会の開催なども見受けられます。

昨年は、新型コロナ感染に加えて、ロシアによるウクライナ侵攻、それによる円安の進行、インフレの拡大と心を痛めることの多い一年でした。本来であればこんな時こそ、仲間が集い語り合う場としての支部活動の意義があると思います。



今年こそ新型コロナに打ち勝って、本来の活動を取り戻し、会員の皆様にとって良い年となることを祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。